

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590300192		
法人名	(株)山崎産業		
事業所名	大瀬別荘G. H.	ユニット名	城山
所在地	延岡市古城町3丁目11-12		
自己評価作成日	平成28年2月1日	評価結果市町村受理日	平成28年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成28年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アピールポイントは地産地消の食材を使った手作りの食事です。そして、できる限り季節感を大事にして外出レクに力を入れています。大瀬別荘G. H. はまだ開設して間もないグループホームになりますので、色々なことにチャレンジできる土壌にあると思います。なのでフットワークも軽く、なんでも取り組んでいけたらいいなと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

正月には手作りのおせちを折に詰め、一人ずつ提供し、運動会には重箱に弁当を用意し、職員と利用者で食べることにしている。自宅で生活している時のように、梅干しや梅酒を作ったり、手作りのヨーグルトを毎日用意するなど、食べることを楽しむように工夫している。施設らしくない環境を作りたいと、腰板を付けずに塗り壁とし、一部屋ごとにカーテンの色を変えるなど、自宅のように落ち着ける場所を提供するための工夫がなされている。ホームの名前も、この考え方から名付けられている。開設から一年がたち、すべての月を経験し、改善点を探りながら、より良いケアを目指し、取り組んでいこうと努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	城山	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職場研修で事業所から理念について学び、職場では常に理念について意識し、利用者様を支援しています。家庭的な雰囲気作りをし、自宅と同じように思ってもらい、楽しく生活できる事業所を目標にしている。	ホーム内には何か所も理念を掲示し、小さなコピーを職員それぞれが携帯しており、一日に何度も目から入ってくるように工夫している。申し送り時にも毎日確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	買い物等の地域のスーパー利用、公共施設、催し物に利用・参加している。また、地域の方や学生などの来荘があるため、交流は出来ていると思う。	地域の防災訓練に参加したり、隣の美容室を利用するなど、近隣の方と顔を合わせる機会を設けている。今後は地域の清掃活動などにも参加していく予定である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に積極的に施設見学に来てもらい、雰囲気を感じてもらったり、2階の多目的室を活用してもらう。社協主催の認知症サポーター研修なども行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催し、行政、地域の方、利用者家族などに参加してもらい、そこで出た意見をサービス向上に活かしている。ただ職員には内容などは浸透していない様子。	花見の場所を提案してもらうなど、意見交換はなされているが、運営に関する意見などが出されていない。今後はホームを向上させるための意見交換ができるよう、どう取り組むかを職員で話し合っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に一回の運営推進会議に参加してもらったり、何かわからないことがあれば指導を仰ぐようにしている。	ケアで悩んだ場合は相談に出向いており、地域ケア会議の開催を提案され、実施し、問題解決に結びついた事例もある。密に連絡を取り、話しやすい関係を構築している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみで、日中、離設の可能性のある利用者様は、職員が連携して所在確認しながら見守り、外に出たい方がいる場合は制止するのではなく、付き添いながらのケアをしている。また、研修などで可能な限り身体拘束をしないように取り組まなければいけないと思う。	ホーム以外の専門職、訪問看護や薬剤師、学生実習の受け入れなど、常に第三者の目を積極的に取り入れ、職員の緊張感を保ち、拘束や虐待の抑止力にしているようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修等で学び、理解を深めていきたいと思う。また、地域の方や外部(訪問看護ステーション、訪問歯科など)の出入りを多くすることで、施設の密室化をしないようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	城山	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会により学ぶことがあるが、まだまだ勉強していく必要があると思います。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	職員は直接かかわっていませんが、施設長、管理者が十分に説明をして理解を得ていると思う。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に出席してもらっている。また、利用者が話しやすい雰囲気づくりに努め、家族の方にも意見、要望等、話しやすい環境に努めている。		意見を聞くためには信頼関係を築くことが第一と考え、挨拶や連絡を取るなどの関係づくりに力を入れている段階である。遠方の家族にはお便りを送るなど、意見を吸い上げるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員研修を実施する前に聞き取りシートを使い、職員の意見を聞く機会を設けている。こまめな個人面談を行っている。		各職員は月に一度意見を提出し、リーダーを中心に話し合いを行っている。給与を渡すときにも、数名ずつ個別に面談を行い、意見を聞く機会を何重にも設定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の声をしっかり受け止め、働きやすい職場づくりをしていると思う。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、面談、外部研修など積極的に参加しながら、職員一人ひとりに機会をつくっていると思う。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今のところ同業者との交流は少ないが、今後グループホーム連絡会などの色々な会合、研修に参加し、ネットワークづくりに尽力したい。			

自己	外部	項目	自己評価	城山	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様との信頼関係を築けるように話を傾聴しながら収集し、相手を知るように心がけている。利用者様は上手に表現できないかもしれないので、まず、不安感をとりのぞき安心へと導く。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネージャーが家族と話し合いを行い、最適なサービスに近づけていけるように見極め、対応に努めていると思う。また、家族の今までのご苦労をねぎらうことが大事になってくると思う。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設長、ケアマネージャーが、本人様、家族様の要望を聞き取り、本人にあったサービス対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の「出来ること」「手伝いたい」という気持ちを大切に、サポートしながら一緒に暮らせる環境を整えているが、忙しい時にはつい職員主導で行うこともある。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	全員とはいかないが、面会に来られた際は一緒に過ごしていただいたり、行事に参加していただいたりと、出来る限り家族との絆を大切にしている。また、何かあった場合にはすぐに家族に連絡し、一緒にご利用者のことを考えるような体制をつくっている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	まだまだ機会は少ないが、利用者様の地区の催し物や同窓会などには馴染みの人々の力を借りながら参加するように努めている。	以前住んでいた場所の敬老会や仕事のOB会などの知らせがあった時には、積極的に参加するよう支援している。家族との関係を保つために、お便りやお知らせを定期的に届けるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアの座席配置、利用者様への声掛け、また、利用者間でトラブルになりそうな場合は職員がうまく中に入り、仲裁する。レクリエーションを通して交流を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価	城山	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者、ケアマネが相談、支援を行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴やコミュニケーション、基本情報の読み込みによって、生活歴や希望、意志の把握に努め、気持ちを汲み取り、意向に添えるように努めている。		家族から情報を聞くことが多い。刺身で晩酌をしたいなどの希望がある場合には、家族と話し合いながら、希望に沿えるように対応するなど、個人の暮らし方に沿えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は本人との会話、家族からの話を伺い、情報の把握に努めている。また、基本台帳を読み込む。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の得意なことを把握しながら、その方のペースにあった生活のリズムや心身状態等の把握に努め、無理強いせず、意向に沿った過ごし方が出来るように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ、職員間でのカンファレンスをこまめに行い、より良いケアが出来るよう話し合い、現状に即した計画を作成している。		モニタリングは、全員で日常の様子を話し合い、今後の目標を決めるようにしている。現在、介護計画の意味を考え、ケアにつなげていけるよう努めているが、すべての職員の理解には至っていない。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は見やすく、第三者がみてもわかりやすいように記入するように心がけ、日々の体調の変化などを把握できるようにしている。そこからの気づきなどは申し送りなどの時に伝え、職員間で共有できるように努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来るだけその時々に合わせて柔軟に行われていると思うが、もっと努力していきたいと思う。			

自己	外部	項目	自己評価	城山	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の美容室を利用したり、スーパーに買い物にいったりと、出来る限り地域資源を使いながら支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ利用者様が今まで関わってきたかかりつけ医を大事にしながら、本人、家族の希望をきき、受診などにも同行したり、看護サマリーを準備するなど、施設内での本人の適切な情報を医師に報告するようにしている。	緊急時はもちろん、家族の都合がつかない場合なども、ホームが代行受診を行っている。日常の様子は看護師がまとめ、受診後は主治医の意見を記録し、家族に連絡を取るよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場の看護師だけでなく、訪問看護ステーションの看護師にも状態の変化を見逃さず報告を行い、適切な対応ができるように常に協同関係を保っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず職員が同行し、情報の共有を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	十分に説明をさせてはもらっているが、もう少し、施設の対応力は勉強していかないとはいけません。	現在は行われていない。利用者の意見や希望も聞き取りながら、今後どうするかをホーム内で話し合う計画である。	方針が決定した後に、その旨を記した書類を作成することを期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網の整備であったり、初期対応の訓練を定期的に行うことが大事であるが、もっと回数を重ねていかなければいけないと思う。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防署での講習、施設での消防避難訓練などを行っているが、もっともっと訓練を行い、緊急時の対応に備えていきたい。	夜間対応の訓練などを実施している。今後は火災時の避難場所の決定や地域に声をかけ、消防署からの講話を聞くなどの取組も計画している。		

自己	外部	項目	自己評価	城山	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけるような声掛けをせず、やさしく丁寧に対応し、利用者に敬意をもって支援している。言葉づかいにも気を使い、ゆっくり一人ひとりのペースに合わせ傾聴に努めている。		気づいた時には一つずつ取り上げ、皆で考えたり、注意するなどしている。親しみの表現か、なれなれしくなっていないかなど、敬う気持ちを持って職員も対応するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類の選択や飲み物の希望などを伺うなど、意図的な声掛けにて自己決定を促している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望に沿った支援が出来るように考えてはいるが、一人ひとりのペースより集団生活としてのルール関係が重視される場合も多々ある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔の保持、整髪、爪切り、髭剃り等の支援はもちろんのこと、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように、更衣時は一緒に服を選んで介助している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、切り方など一緒にされている。献立は担当者が旬の食材を取り入れたり、利用者の好みを聞いたりして作成している。		漁師だった利用者に鰹をさばいてもらったり、また、利用者のいる場所で食事の用意をすることで、調理に参加しやすい環境を作っている。一緒に買い物に出掛けたり、作る段階から共同して取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士、看護師、介護士が連携を取りながら、個々の状態を把握し、栄養バランス、量、水分量も考え支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自力での口腔ケアを促し、不十分な部分を一部介助して、清潔保持に努めている。また、訪問歯科診療とも連携して、何か問題があればすぐに連絡、相談ができる環境を整えている。			

自己	外部	項目	自己評価	城山	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握し、声かけを行い、失禁を防げるよう工夫している。動きや表情などのサインを見逃さないようにし、トイレにて排泄できるように支援している。	利用者に合わせて、ポータブルトイレやおむつなどの支援をしている。服薬や水分ゼリーを作るなど、水分摂取量を考慮した排せつに気配りし、自立に向けて支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操や運動をするようにしている。食事は繊維質の食事やヨーグルトのような乳製品などの腸の動きがよくなるものや水分を多めにとってもらっている。また、医師、薬剤師と連携しながら、その人にあった下剤などの薬の調整も行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	好きな時間、好きな曜日に入浴を希望するところまでには至っていないが、出来る限り希望や健康状態に合わせて入浴を行っている。	入浴のない日は足浴をしている。足趾間ブラシを使用し、清潔保持に努めている。ゆず湯やしょうぶ湯などで季節感を出し、入浴を楽しめるよう工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決まっておらず、好きな時間に休んでいただく。一人ひとりにあった入眠が出来るように、夜間状態を把握し、対応している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を活用し、把握に努め、服薬時には2者確認にて確実な服薬に努めている。また、居宅療養管理指導ということで、薬剤師にも施設内にはいってもらい、何か疑問点があればすぐに連絡・相談できるような環境づくりをしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の昔やっていた趣味、特技を生かせるような取り組みを行い、それぞれに役割をもってもらう。また、外出(ドライブ、散歩)などを多くとり入れて、気分転換を図るように努めている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ、散歩、近所への買い物など、出かける支援を多くとり入れている。また、家族にもできるだけ一緒に外出していただくように声掛けをしている。	月に一度の夕食や買い物、ドライブなど、外出機会が多い。のど自慢大会の応援には、職員と利用者全員で出掛けた。今後は西都の花見など、遠距離のドライブを計画している。		

自己	外部	項目	自己評価	城山	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設管理になってはいるが、買い物レクなどの際には、本人希望で所持が出来るように支援をしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している利用者様もおられるが、その他の方々は要望に応じ、その都度対応できるように支援を行っている。また、手紙が来た場合は家族に了承の下、本人に手渡すようにしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃はもちろん、汚れを見かけた際には速やかに清掃を行い、不快感を与えないように心がけ対応している。温度、室温に気を付けている。季節感ができるように、利用者様と一緒に壁飾りなどを作り、工夫している。		清掃や換気、転倒防止のために床面に物を置かないことなどを気を付けている。利用者の安全に考慮し、玄関には長椅子スペースを設置し、大勢で外出しても滞らないように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の配置に気を付けたり、リビングに季節や行事に応じた飾り付けを行ない、季節感を味わってもらっている。それぞれ好きな時間を楽しんでもらえるようにしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みのものや家族と一緒にと思った思い出の写真などを飾ったり、居心地が良いように工夫している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内はベッド位置、高さ、タンスなど、安全に配慮した配置をしている。トイレ、浴室、個人の部屋が視覚的に認識できるように工夫している。			